

勝王山 ： 歌

著者	小林, 章
雑誌名	龍南
巻	2 1 5
ページ	7 5 - 7 5
発行年	1930-11-10
URL	http://hdl.handle.net/2298/6988

勝王山

小林

章

いぬがやの枝に細葉にからみつ眞葛の蔓のおのづからなる
風すこしありて動くよこの朝の梢こすゑに青葉のゆらぎ
ささ川も白きまさごに水ぬれて葉羊齒ゆれをり朝の光に
ふか山は水さへ低きこの谿のむかふの樹々に啼くほととぎす
遠く聴き近く寄りつつほととぎす一つの聲の谿を隔つも
生き死にのわかちはなしとかにかくの訓へもつもの老僧の言葉
庭ひろき廟のほとりの夏樹立ひぐらし啼いて日もおそからむ

大池牧場に遊ぶ

秋晴れの野山うれしも群れ集ふ羊のなかにひねもす遊ぶ
落ちかゝる入り陽の光り穂のひかり芒みだれて生える情しさ